

2024年6月3日

NPO パートナーシップ協力プログラム 事業終了報告書

防災きずな学園

代表 伊藤 聡

1. 事業名

防災きずな学園合同研修～東日本大震災の教訓を次なる防災活動に活かす～

2. 事業カテゴリ

3. 事業期間

2024年3月1日 ～ 2024年3月31日 (31日間)

4. 契約金額

500,000円

5. 担当者名

伊藤 聡

6. 事業目的

地域や学校を超え、能動的に活動する若者の姿を広く世の中に知ってもらうことで、防災意識の向上や震災の風化防止に貢献することが期待できることから、2024年3月に行われる「仙台防災未来フォーラム 2024」に再度共同でブース出展をすることで、防災普及へとつなげることを目指す。

7. 事業の成果

- 仙台市で行われた仙台防災未来フォーラム 2024 にあわせ、釜石と神奈川の高校生を対象とした合同の防災研修を行い、釜石 11 名、神奈川 5 名の計 16 名が参加した。研修自体の有用性はもちろんだが、これまで zoom 等でしか交流ができなかった中で、対面で協働して活動を行ったことで距離感が縮まる効果があった。
- 新しいオリジナル防災啓発グッズを作成することができた。これまで継続して議論はあったものの、メンバーの忙しさもあり思うように進められていなかったが、3月10日のお披露目の決定をきっかけとして「オリジナルミニ大漁旗」の完成と配布に至った。

8. 事業種別（コンポーネント）ごとの成果

コンポーネント①

宮城県内の語り部ガイドや震災伝承施設を訪問した合同研修の実施

「仙台防災未来フォーラム 2024」への参加にあわせ、フォーラム前日に石巻市を訪問し、防災研修を実施し、夢団 11 名・神奈川チーム 5 名の計 16 名が参加した。

◎ 石巻市震災遺構 門脇小学校の見学（ガイド付き）

- ・ 震災遺構門脇小学校の見学を専属ガイドの案内付きで行った。特に夢団の高校生に限っては、11名中9名が釜石市外の伝承施設の見学が初めてだったこともあり、釜石の事例以外について深く知る機会となった。※門脇への訪問は全員が初めて

◎ MEET 門脇の見学（地元高校生によるガイド付き）

- ・ 石巻市内の高校生4名による館内ガイドの元で、MEET 門脇の見学を行った。
- ・ タブレットを用いたガイドツアーに参加した。

コンポーネント②

仙台防災未来フォーラム 2024 ヘブース出展

- ・ 開発中のオリジナル防災ゲーム「防主めくり」のプロトタイプの体験ブースを出展し、106名がゲームを体験した。また、活動に興味を持たれた方が立ち寄り、ブースを担当している高校生が日頃の活動等の説明を担当した。
- ・ 多様な出展ブースや防災ゲームの体験機会があったことで、メンバーそれぞれの見識を広げる貴重な機会となった

コンポーネント③

釜石シーウェイブス RFC ホーム戦会場での伝承活動、防災小説発表会

釜石市内で行われたイベント等の会場内で震災伝承活動を行った

◎ 釜石シーウェイブス RFC ホーム戦会場での伝承活動（3月10日）

- ・ 鶴住居復興スタジアムで行われた伝承活動に14名が参加し、オリジナル安否札配布と語り部の2チームに分かれて活動を行った
- ・ 夢団メンバー6名が語り部として活動し、179名が立ち止まり耳を傾けてくださった。なお、6名中5名がこの日が語り部デビューとなった

◎ ちあ釜、防災小説 発表会（3月10日）

- ・ うのすまいとモスで行われた「ちあ釜」の発表イベントにあわせ、語り部2名が伝承活動を行った。
- ・ 新たに作成した伝承グッズ「オリジナルミニ大漁旗」のお披露目ならびに来場者への配布を行った。
- ・ 津波伝承施設「いのちをつなぐ未来館」の館内で、防災小説の展示を行った。防災小説は宮城研修に参加していないメンバーも取り組んでおり、計28名が参加した。

9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

- ・ 防災きずな学園は釜石と神奈川のメンバーによる合同チームで、これ自体は非常に存在価値が高いものであるが、やはり日頃のコミュニケーションの取り方の難しさが課題として残る。そういった中でも、今回のように一つのイベントに向けて議論を重ねるといった体験は、お互いにとって非常に価値のあることであるからこそ今後も続けていく

10. 協力体制の構築

《構成団体》

- ・ 夢団～未来へつなげる ONE TEAM～（岩手県釜石市）
- ・ 防災普及学生団体 Genkai（神奈川県鎌倉市）
- ・ 3.11 つなぐっぺし（神奈川県逗子市）
- ・ つなぐ、つながるプロジェクト（慶應義塾大学学生有志）

・横浜桐蔭学園卒業生有志

【事務局】

飛川優（慶應義塾大学 2 年）：全体の統括、防災小説責任者

橋元玄（Genkai 代表、高校 3 年）：神奈川の高校生の取りまとめ

中居林優心（夢団、高校 3 年）：釜石の高校生の取りまとめ、防災ゲーム責任者

伊藤聡（さんつな）：全体のサポート、宮城研修・仙台フォーラム担当

※主にこの 4 名が事務局メンバーとして定期的にミーティング行い、高校生が動きやすい環境づくりをサポートしている

1 1. Civic Force との協働について

参加メンバーのふりかえりからも読み取れる通り、日頃は地元地域での活動ばかりになってしまうところ、今回のようなフォーラムへの参加は、個々人の知見や興味の幅を広げることへとつながることから、非常に有意義なものとなった。実際に参加したメンバーからは「防災紙芝居を新しく作りたいので相談に乗って欲しい」とか「語り部をやってみたい」とか「VR を使用した伝承活動を考えたい」など、未来へつながるような声が直接届いている。

高校生を仙台に連れていくだけでも小さな団体にとっては大きな負担によって実現が難しいことから、そこを資金面でサポートしてくださって本当に感謝しております。